

1月16日(木) 島コショウの伝統的な栽培・利用方法と その食品機能を活かした商品開発

14:40-16:10

オンライン開催



島コショウ(ピーパース)は、沖縄、特に八重山諸島において古くから栽培され、地域住民に親しまれてきた香辛料です。その芳醇な香りと健康効果が注目され、近年では全国的に再評価されています。

本公開講座では琉球への伝来の経緯や、八重山の暮らしと植物利用について解説します。さらに、島コショウの有用成分分析や、その成果を活かした商品開発に関する研究内容の一部を紹介します。

登壇者

新垣 慶子 あらかきけいこ

(沖縄大学地域研究所特別研究員)

琉球料理ユネスコ無形文化遺産登録推進委員会委員長、琉球料理伝承人(一期生)、元沖縄大学特任准教授。病院管理栄養士として長年臨床に従事する傍ら子ども食堂を運営。地域の食・健康問題に取り組んでいる。

宮良 恵美 みやらめぐみ

(沖縄大学健康栄養学部教授)

生化学を担当。生化学的手法を活かして沖縄県産食材の生理機能を研究している。臨床検査値を栄養・健康状態の改善に活用できる管理栄養士の養成に取り組む。

盛口 満 もりぐちみつる

(沖縄大学人文学部教授)

石垣島での聞き取り調査、「沖大ピーパースマカロン(仮称)」のパッケージ挿絵を担当。

『植物の描き方:自然観察の技法III』(東京大学出版会)、『琉球植物民俗事典:聞き書き琉球列島の植物利用』(八坂書房)等著書多数。

吉野 敦 よしのあつし

(一般社団法人トロピカルテクノプラス、沖縄大学地域研究所特別研究員)

化学分析を担当。専門は天然物化学。機能性表示食品届出指導員。海産生物が作り出す毒素の研究に従事。食品や健康食品に含まれる機能性成分の分析、商品開発支援、機能性表示食品の届出支援に取り組んでいる。

研究概要

【2024年度 沖縄大学全学研究プロジェクト班】

研究名:島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発(3年目)

対象地域:南西諸島

研究内容:沖縄で長年愛用されているピーパースについて、伝統的な栽培・利用方法を学術的・体系的に総括し、最高な芳香を引き出す標準的な製法の確立と生理機能の評価に取り組み、地域団体と協力して、その良さを活かした商品を開発する。

プログラム

- 14:40-14:45 開会挨拶・研究メンバー紹介(後藤)
- 14:45-15:05 琉球に伝わった島コショウ(ピーパース)(新垣)
- 15:05-15:20 八重山の植物利用(ピーパースも含めて)(盛口)
- 15:20-15:35 ピーパースの香りと商品開発(宮良)
- 15:35-15:55 ピーパースの有用成分と機能性食品の可能性(吉野)
- 15:55-16:10 質疑応答・終了

「地域研究公開講座」について

沖縄大学地域研究所には、本学教員及び特別研究員、その他の研究協力者で構成された研究班があります。それぞれ、地域の役に立ちたいという想いで地域研究に取り組んでいます。

本研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的とし、全ての研究班が地域研究公開講座を実施しています。研究班活動の内容や対象とする課題等について、皆様に分かりやすくご紹介させていただきます。今年度は全9班の地域研究公開講座を開催します。(裏面参照)

★視聴無料★ 1/14(火)までに要事前申込

申込先【Googleフォーム QRコード】

本学HPの「イベント」からもお申込みいただけます。氏名・連絡先・所属等、必要事項を入力の上送信してください。お申し込みされた方には、1/14(火)までに、申込受付メールを送信します。メールが届かない場合は、1/15日(水)14時までに沖縄大学地域研究所までお問い合わせください。

※ 講座終了後、アンケートの回答にご協力ください。
申込受付メールで 回答フォームURLをお送りします。



問い合わせ先: 沖縄大学 地域研究所
住所: 沖縄県那覇市市場405番地
沖縄大学アネックス共創館2階
窓口: 平日8:30~17:15(12:00~13:00 閉室)
Tel: 098-832-5599
Mail: chicken-staff@okinawa-u.ac.jp

2024年度 沖縄大学地域研究公開講座 一覧 (12月17日現在)

※詳細が決まり次第、本学HPよりご案内いたします。

	開催予定日	研究代表者名	研究名	研究内容要約
1	7月10日(水) 13:00~14:20	王志英 (国際コミュニケーション学科)	沖縄県、離島における中国語標識・案内板確認について	沖縄県内外、離島における中国語、英語標識・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正する。
2	8月26日(月) 16:00~17:30	系数 哲 (経法商学科)	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしながら、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。
3	9月13日(金) 17:00~18:30	西 章 (福祉文化学科)	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022年2月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていきたい(学び舎)として平和教育を実践していくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ、フォーラムやワークショップを企画運営し、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。
4	11月20日(水) 15:00~16:30	盛口 満 (こども文化学科)	離島における教育連携	地理的に不利な離島地域と大学機能(大学生による出前授業と地域交流)を連携することにより、「離島における教育機会」の課題を整理し、同時に大学機関で今後どのように地域と連携できるか模索する。
5	12月4日(水) 16:00~17:00	若林 千代 (経法商学科)	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法—戦後史研究の実践から問い直す—	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とは言い難い。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。
6	1月16日(木) 14:40-16:10	宮良 恵美 (管理栄養学科)	島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発	島コショウ(ピーパーズ)は、沖縄、特に八重山諸島において古くから栽培され、地域住民に親しまれてきた香辛料であり、その芳醇な香りと健康効果が注目され、近年では全国的に再評価されている。島コショウの有用成分分析や、その成果を活かした商品を開発する。
7	1月22日(水) 16:30-17:30	富山 侑美 (経法商学科)	沖縄県の臓器移植に関する法・政策・倫理—より多くの命を救うために—	移植でしか救命出来ない命を救うための臓器提供が十分ではない現状に鑑み、献腎移植全国1位となったことのある沖縄県での臓器提供推進の取り組みを分析し、政策提言を行うことで、よりよい医療環境の構築を目指す。
8	2月1日(土) 13:30-16:00 ※土曜教養講座予定(対面)	豊川 明佳 (経法商学科)	沖縄の地域産業を牽引する企業におけるブランド志向の実践とアクションリサーチ	本研究は、ブランド・アイデンティティの「共創」を中心に据えたコーポレート・ブランディングの実践を行う沖縄県内の企業を対象とし、市場志向からブランド志向への変革と実践へ向けての一連のプロセスを考察する。
9	2月15日(土) 14:00-16:00	宮城 能彦 (こども文化学科)	琉球・沖縄共同体の源流と変遷の研究	現在に直接つながる琉球・沖縄の「共同体」は農耕が始まった12世紀から15世紀のグスク時代に始まると言われている。その起源と変遷(特に近世と近代)を考古学と歴史学と社会学の視点から明らかにする。